

年間第33週 金曜日 11月20日

祈りの家で平和のメッセージを受ける

第一朗読 (1マカバイ4章36―37・52―59節)

36 ユダと兄弟たちは言った。「見よ、我らの敵は粉碎された。都に上り、聖所を清め、これを新たに奉献しよう。」37そこで全軍が集結し、シオンの山を目指して上って行った。

52 第百四十八年の第九の月――キスレウの月――の二十五日に、彼らは朝早く起き、53 焼き尽くす献げ物のための新しい祭壇の上に律法に従っていけにえを供えた。54 異教徒が祭壇を汚したのと同じ日、同じ時に、歌と琴、豎琴とシンバルに合わせて、その日に祭壇を新たに奉献した。

55 民は皆、地に顔を伏せて拝み、彼らを正しく導いてくださった方を天に向かつてたたえた。56 こうして祭壇の奉献を八日にわたって祝い、喜びをもつて焼き尽くす献げ物をささげ、和解の献げ物と感謝の献げ物のいけにえを屠った。57 彼らはまた神殿の正面を黄金の冠と小盾で飾り、門と祭司部屋を再建し、戸を取り付けた。58 民の間には大きな喜びがあふれた。こうして異邦人から受けた恥辱は取り除かれたのである。

59 ユダとその兄弟たち、およびイスラエルの全会衆はこの祭壇奉献の日を、以後毎年同じ時期、キスレウの月の二十五日から八日間、喜びと楽しみをもつて祝うことにした。

福音 (ルカ19章45―48節)

45 それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追いつ出し始めて、46 彼らに言われた。「こう書いてある。

『わたしの家は、祈りの家でなければならぬ。』

ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」

47 毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、48 どうすることもできなかった。民衆が皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである。

朗読から祈りへ

―勝利に導く神―

マタティアは戦いに勝利を収め、エルサレム神殿を取り戻して異教徒によつて汚された祭壇を新たに奉献した。その祝いは八日間続いた。「民の間には大きな喜びがあふれた」。こうして宮清めの祭りが毎年祝われるようになった。旧約聖書にはさまざまな戦いが記されている。そしてイスラエルの民は神の助けによつてその戦いに勝つ。戦いの勝利を祝い、勝利に導いた神に感謝する。勝利を記念する建物が建てられ、記念する祭りが制定され、盛大に祝われる。はたしてそれは真に神が望むことだったのだろうか。神はその民イスラエルを導く。まことの救い、まことの平和に。

あらゆる宗教が自分を守る神を崇める。敵があればそれと戦い、敵を打ち負かす力を神に願う。勝利を取めると敵のものを略奪し、分捕り品を分けあう。神に特

別ないけにえを捧げ、感謝する。そしてまた戦いを繰り返す。そしてまた勝利を収め、感謝のいけにえを捧げる。このことが繰り返される。

イエスは新しいイスラエル、新しい神の民を作る。イエスの教えによつて呼び集められた民はあらゆる宗教、民族、文化を越えるもの。この新しい民は敵を作らない。この新しい民は戦わない。この新しい民はすべての民が平和であることを祈り、そのことを神に願う。

―神殿は祈りの家―

イエスは「神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出す」。そして聖書のことを引用して言われる。『わたしの家は、祈りの家でなければならぬ。』ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」

使徒言行録に初代教会の姿が記されている。「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを

裂き、喜びと真心をもつて一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」(二四―四七)

しかし、こうして始まった新しい神の民、教会も、やがては権力や財産を持ち、敵を作り、自分を守るために戦いを始めた。聖戦という名のもとに。かつての旧約の民と同じように、神に敵を打ち負かすことを願い、勝利すると神に感謝を捧げた。しかし、幸いに教会はまだ壊れてしまつてはいない。旧約時代にそうであつたように、新約の時代にも神は聖者を送り、たびたび真の民になるように呼びかけている。アシジの聖フランシスコしかり、福者コルカタのテレサ(マザー・テレサ)しかり。その他あまたの聖者しかり。

「祈りの家」。現代の神殿。そこでイエスは毎日わたしたちに語りかけ、教えておられる。その言葉、その声に耳を傾け、イエスの平和のメッセージを受け止めなければならぬ。真摯に。謙虚に。今の教会の姿は初代教会のように分かち合う教会なのだろうか。

(M・M・Y)